

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年10月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム百歳万歳	ユニット名	壺番館
所在地	〒311-1504 茨城県鉾田市安房1665-1		
自己評価作成日	平成27年4月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年10月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873600472-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年6月17日	評価機関 決 済 日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">* 同法人が運営する保育園との交流が多くあり行事を通じて園児とのふれあいが数多くある。* 協力病院が近隣にあり医療支援が受けやすい。* プランターで野菜を作り、水やりや収穫を一緒に行い収穫した野菜を加えて料理を提供している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は閑静な住宅地に位置し、近くには商業施設が多数あるので、職員は利用者の希望に応じて買い物や外食ができるよう支援をしている。</p> <p>敷地内に同一法人の特別養護老人ホームと通所介護事業所があり、合同で納涼祭や総合防災訓練を地域消防団の参加を得ながら開催するなど、日頃から連携を図って利用者の支援に当たっている。</p> <p>同一法人の保育園児が毎月来訪して歌や遊戯を披露したり、利用者からは手作りのストラップやメダルをプレゼントして交流をしているとともに、保育園での敬老会や運動会には招待を受けて職員と利用者で訪問するほか、行方市文化会館や鉾田公民館で開催する祭事に参加したり、地域の運動会から招待を受けて玉入れやパン食い競争に参加するなど、子ども達や地域住民とふれ合う機会が多い。</p> <p>関連施設の病院が協力医療機関で、医師との連携が確立しているため、利用者や家族等の安心につながっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を玄関とスタッフルームに掲示すると共に、カンファレンスや会議等で理念の意識を確認し、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関と事務室に掲示している。 管理者と職員は、月1回の職員会議やカンファレンスの際にも理念を確認し、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・保育園、地元のボランティアの訪問を積極的に受け入れている。 ・特別養護老人ホーム合同で主催する、納涼祭にて地域の方を招待している。 ・近隣の農家の方が野菜を届けてくれる。	毎年隣接する同一法人の特別養護老人ホームと合同で「納涼祭」を開催し、家族等や地域住民を招待している。 同一法人の保育園児が毎月来訪して歌や遊戯を披露し、利用者からは手作りのストラップやメダルをプレゼントしたり、保育園での敬老会や運動会に招待されるなどで交流している。 行方市文化会館や鉾田公民館で開催する祭りに参加したり、地域の運動会から招待されて玉入れやパン食い競争に参加するほか、近隣住民が頻繁に花や野菜のお裾分けに来訪しており、子ども達や地域住民とふれ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・在宅介護支援センター主催の介護者教室に参加すると共に、介護方法やグループホームについて説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度の会議を実施している。又、必要に応じて開催している。 ・利用者の状況等について話し合い意見を求めている。	運営推進会議は市職員や民生委員、法人代表、家族等の参加を得て2ヶ月に1回議題を決めて開催している。 事業所からは利用者の様子や運営状況、行事報告、防災訓練実施の状況や反省点、家族アンケート結果への対応などを報告し、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしているが、地域住民代表の委員が1名のみのため、欠席すると地域住民の意見が得られない。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための会議でもあるので、地域住民の代表委員を増員し、毎回1名は参加できることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議時などに話す機会を持っている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や、要介護更新申請などで市担当者を訪問した際に、運営状況や事業所の空き状況を報告している。 市の担当者からは感染予防対策の指導を受けたり、介護保険制度の改正や研修の連絡を受けるほか、地域包括支援センター職員からは、入居前の利用者について支援内容の相談を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内研修を行なっている。	身体拘束委員会を設置し、身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、年に1回勉強会を行い、「身体拘束に関する問題」のテストを全職員が実施している。 職員は身体拘束となる具体的な行為について理解するとともに、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は防犯上夜間のみ施錠し、利用者が自由に出入りが出来るよう見守り体制で支援している。 身体拘束が必要になった時のために、「同意書」と「経過観察記録」、「再検討記録」を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内研修を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内研修を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・誓約書に基づき利用者や家族から不安や疑問に対して十分に説明し納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設け自分で書ける方は書いて頂き書けない方は、口答で申し出て頂いてアンケートを作成し、本人やご家族に記入して頂いている。又、それについて利用者や家族、職員間で話し合い、よりよい方法を考えている。	玄関に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に第三者苦情申立窓口を記載している。 管理者と職員は、利用者からは日々の会話の中から、家族等からは来訪時や電話、アンケートにより意見や要望を聴いている。 「外出を増やして欲しい」等の要望を受け、外出の機会を増やしているが、アンケートの集計結果や事業所の対応を家族等に報告するまでには至っていない。	アンケートの集計結果やそれに伴う事業所の対応を家族等に報告することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1回、又は随時グループホーム会議を設けて意見を聞いている。	月1回の職員会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けているほか、業務中や休憩時間にもコミュニケーションを図り、何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「畳の居室でも車いすがスムーズに出入りできるようにしたい」や「利用者の朝食に合わせて、早出の出勤時間を変更しては」などの提案を受け、和室の入り口にビニールを敷いたり、職員の勤務時間を変更するなど、出た意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回、職員評価表を用いて自己評価を行い、その後、管理職が再評価をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の年間計画で研修を行なっている。 又、外部研修へも参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市の会議に参加したり、外部研修参加時に同業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、本人からの疑問、要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、家族からの疑問、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状況にあった施設、又は、居宅であるか、本人・家族・施設職員とよく話し合い。見極めをしケースによっては、法人内の在宅介護支援センターに相談する事もある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員とお茶・食事・散歩等を一緒に行動をする中で要望・悩み・訴え等を聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行事等がある場合は、家族に連絡して参加をして頂き関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・携帯電話、電話、手紙を書いたりして関係が継続出来るように支援している。	職員は利用者の親戚や友人などの来訪時には、ゆっくり話せるよう希望の場所に案内してお茶を出し、継続的な訪問になるよう支援している。 利用者の馴染みの理・美容室に同行し、職員が同行できない場所については、利用者の思いを家族に伝えているほか、利用者が外国など遠方に在住する知人に手紙を出す際や、家族等や友人に電話をする際に支援し、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が話題を提供したり、本人の出来る役割をしてもらい、お互い認め合えるような関係を築けるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・協力病院に入院時には定期的に訪室し、声をかけている。同一法人内施設入所時にも随時、見守り声かけをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・定期的にケアチェック表を利用してモニタリングし、希望要望を把握している。	管理者と職員は、入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握するとともに、日常の関わりの中から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。 意志の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、管理者と職員で相談しながら利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・実態調査の資料を基に趣味や以前の経験を暮らしの中に活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・随時モニタリング、カンファレンスをし、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居者、家族の要望を把握して、これによってアセスメントを行い介護計画をたてている。	介護計画は、利用者や家族等の意見や要望を聴き、医師や職員の意見を取り入れて作成し、月1回のカンファレンスと、3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等から確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に基づいた記録を見直しながら、モニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・買い物の要望、又は、代行。事務の代行（振り込み等）を随時、行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・保育園の行事に参加したり誕生会等には園児達に来て頂いている。 ・ボランティアの方々に定期的に来て頂いている。又、随時、受け付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者、家族の希望が優先であり、協力病院と連携を密にして気軽に相談している。	契約時に利用者や家族等に、希望するかかりつけ医への受診が可能な事を説明している。 協力医療機関での受診は職員が月1回同行し、受診結果は家族等の来訪時や電話で報告している。 協力医療機関以外の受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時には「情報提供書」を家族等に渡している。 受診結果はいずれも「個人ファイル」に記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・園長が兼務し、夜間緊急時の相談対応ができる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・隣接地にかかりつけの病院がある為、入院時には毎日面会に行っている。又、隣接しているので早期発見による治療も可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所前の契約時に話し合いをし、意向を聞いている。契約書に記載している。又、協力病院以外の病院入院時には、随時、家族と連絡を取り合い状況把握に努め、退院後の生活について話し合うようにしている。	契約時に利用者や家族等に事業所の「看取りに関する指針」に基づき説明しているが、書面で同意を得るまでには至っていない。 医療機関との連携体制も確立しており、同一法人の特別養護老人ホームと合同で内部研修を実施しているが、まだ看取り経験がなく、事業所として看取り介護支援に向けて具体的に話し合うまでには至っていない。	「看取りに関する指針」を家族等に説明した際は、説明したことが分かるように書面で残す事を期待する。 事業所として看取り介護支援を実施する場合、指針に記載している「看取りに関する職員教育」に基づき勉強会を実施する事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急対応マニュアルを作成している。緊急時における連絡網の掲示、病院が隣接しており緊急時に対応出来る体制となっている。又、研修会も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に消防訓練、避難訓練を実施している。又、地域の消防団の方々にも参加して頂いている。非常災害時に3日分位の水と食料品を備蓄している。	防災訓練委員会を中心に、隣接する同一法人の特別養護老人ホームと合同で、地域住民と地元消防団の参加を得て年2回夜間想定を含めた避難訓練を行い、1回は消防署立ち合いで実施している。 訓練後に、職員会議で反省点や次回に向けた課題などを話し合い、記録に残している。 災害に備えて飲料水や米、レトルトカレー、缶詰等3日分をリストを作成して備蓄し、災害時には近隣住民宅の飲料水にも使える井戸が使用できることになっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は入居者の生活歴や生活を十分に把握し言葉かけをしている。又、職員研修を行っており常に勉強している。	職員は利用者の基本情報から生活歴を把握し、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行っている。 排泄時のトイレ誘導の際はさりげなく声をかけるほか、失敗した時などは自室にトイレが設置されているため、利用者の自尊心を傷つける事なく誘導し易い。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵の掛る書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 広報紙などの写真掲載については、「個人情報提供同意書」にて同意を得た利用者のみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者の希望を大切にし、日々の行事等も取り入れている。本人の思いを記録する時には、ケース記録に赤ラインを引く等をし、職員間で共有出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者のペースに合わせた、ゆったりとしたケアの実践と支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・好みの服の買い物や美容室・理容室も本人の好みの所へ行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の好みの箸や食器を使用している。 ・職員が間に入り、雑談しながら摂っている。	利用者の希望や嗜好を聴きながら、自家菜園で収穫した野菜や近隣の農家の方が届けてくれる新鮮な野菜、季節に合った食材を取り入れて職員が献立を作成し、調理している。 誕生会や行事食は利用者の希望する献立としたり外食に行くほか、利用者の咀嚼能力に応じてトロミをつけたり刻み食にするなど、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供し、一緒に会話をしながら食事が楽しめるよう配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居者一人一人の食事や水分量の状況を把握し、チェック表に記載している。ヤクルトなど毎日飲んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後は歯磨き、義歯の手入れ、うがいなど自力で行なって頂いている。出来ない方は支援している。又、年1回、協力歯科医に来園してもらい検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握している。介助が必要な方は、定期的に誘導している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知して声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 リハビリパンツやパッドを使用し、オムツに頼らず排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜を多く取り入れた食事を提供している。又、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖水などの提供、1日2回、身体を動かす体操を取り入れている。園外への散歩、ホール内での運動も多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・希望に応じて、毎日、又は1日おきに実施し、ゆったりと入浴出来るように支援している。シャワーベンチマット、シャンプーも本人の希望がある場合には、個別で使用している。	風呂は毎日沸かして午前中の入浴を基本とし、ほとんどの利用者が毎日入浴しているが、利用者の体調や希望にそって入浴日や時間を変えたり、シャワーや足浴で個々に応じた支援をしている。 季節に応じて菖蒲湯や柚子湯、入浴剤などを取り入れて入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ドライブ、散歩、レクリエーションを通して夜間眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別の薬の飲み方や副作用等の症状の変化や早期発見に努めている。変化がある場合には、医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯たたみや台拭きなどの役割や楽しみごとに応じた支援、又、食事の際、本人の好きなおかず（個人購入）したものを提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居者一人一人に合わせて、買い物・地域の催し物、又、家族の協力を得て面会時等、外出している。	天気の良い日は職員と利用者で事業所周围を散歩したり、利用者の希望に合わせて地域の花の名所や近くの海岸にドライブに出かけるなど、利用者の気分転換が図れるよう支援している。 銚田神社への初詣を始め、春には「ほこたっ子フェスティバル」、秋には「銚田文化祭」等に職員と利用者で行ったり、毎月本を買いに行く利用者に同行するなど、個別対応もしている。 職員が同行できない場所については、利用者の思いを家族等に伝えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理の出来る方は、小遣いの範囲内で自己管理している。その他は、個別の支援している。又、出納は、家族に定期的に書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話の使用を許可している。本人の希望にあった時には、事務所内の電話を使用している。 ・はがきの購入、投函、代筆等の支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者や職員が共に作成した作品や七夕飾り、お月見団子、鏡もち作り等をしている。又は、ゆず湯や菖蒲湯の入浴や梅の実を収穫してジュース作りも行っている。	共有空間は清潔に保たれ、居間兼食堂の窓は夏の直射日光を考慮して、窓の外に朝顔のグリーンカーテンが作られている。 利用者が1人で休憩したり、利用者同士が交流できるようソファや長椅子が配置されている。 各ユニットに車いす対応のトイレがあり、両側に手摺を設置し、広い廊下にも手摺を取り付ける等利用者の安全に配慮した作りとなっている。 廊下の壁面には利用者と職員で一緒に制作した季節の花の塗り絵を飾り季節感を出している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファコーナー、畳コーナー、ベランダに休憩コーナーがあり、それぞれ工夫した場所で入所者がおもいおもいの過ごし方をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個人、家族の要望を取り入れ、それぞれの装飾品、ラジオ、テレビ等を持ち込み、落ち着いた生活を送っている。	居室にはエアコンやクローゼット、ベッド、カーテン、洗面所、トイレが備え付けられている。 利用者は使い慣れた整理筆筒やテレビ、時計、仏壇、家族の写真、お人形、編み物等の手芸道具のほか、趣味のパズルの完成品や折り紙、塗り絵など自分の作品を壁に飾り、居心地の良い居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・名前を居室のドアノブへ表示し、認知症により室内の家具等にも表示している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム百歳万歳

作成日 平成27年10月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための会議でもあるので、地域住民の代表委員を増員し、毎回1名は参加することを期待する。	地域の方が毎回参加できるよう協力を得る。	地域の方へ声掛けをし、増員できるよう努める。	6ヶ月
2	6	アンケートの集計結果やそれに伴う事業所の対応を家族等に報告することを期待する。	アンケート集計を報告する。	毎月発行している、百歳万歳だよりの中に載せた家族に報告する。	3ヶ月
3	12	「看取りに関する指針」を家族等に説明した際は、説明したことが分かるように書面で残す事を期待する。事業所として看取り介護支援を実施する場合、指針に記載している「看取りに関する職員教育」に基づき勉強会時を実施する事を期待する。	家族に説明した際は、分るように書面で残す。看取り介護支援に備え内部研修を行う。	家族に説明した際は、説明した事が分かるように書面で残す。グループホーム会議の中で勉強会を行う。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。